

情報教育

情報モラル指導に求められる学習素材の作成

産業教育課 指導主事 平川正晃 他1名<注>

要 旨

情報モラル教育を実践していくためには、本県の学校現場の実情にあった小学校から高等学校まで利用できる、学習指導資料及び校内研修や保護者への啓発にかかわる資料の提供が必要である。このことから、教員研修や児童・保護者講演での実証研究を基に、情報モラル指導に関する情報提供やインターネットにある資料の活用法、学習指導事例や学習指導で利用できる素材についての研究を行った。

キーワード：情報モラル 学習素材 提示資料 ワークシート

I 主題設定の理由

インターネットや携帯電話が急速に普及した情報社会における児童生徒・教員の背景を基に、改訂された学習指導要領では、各校種の総則において情報モラル教育の充実が必要であるとしている。また、文部科学省は平成20年11月「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集においても、情報モラル教育の充実と教員の指導力向上が必要であるとしている。

そこで、情報モラル教育を担う本県教員の一助となる指導に関する資料提供から学校現場の実情にあった学習素材の提供をすることとした。この学習素材は、プレゼンテーションのスライドや提示用の図画、児童生徒が記入して学習を深めるワークシートとし、教員が情報モラル指導をする際のねらいや授業の場面、対象に応じて活用できるような「まとまり」とした(図1)。

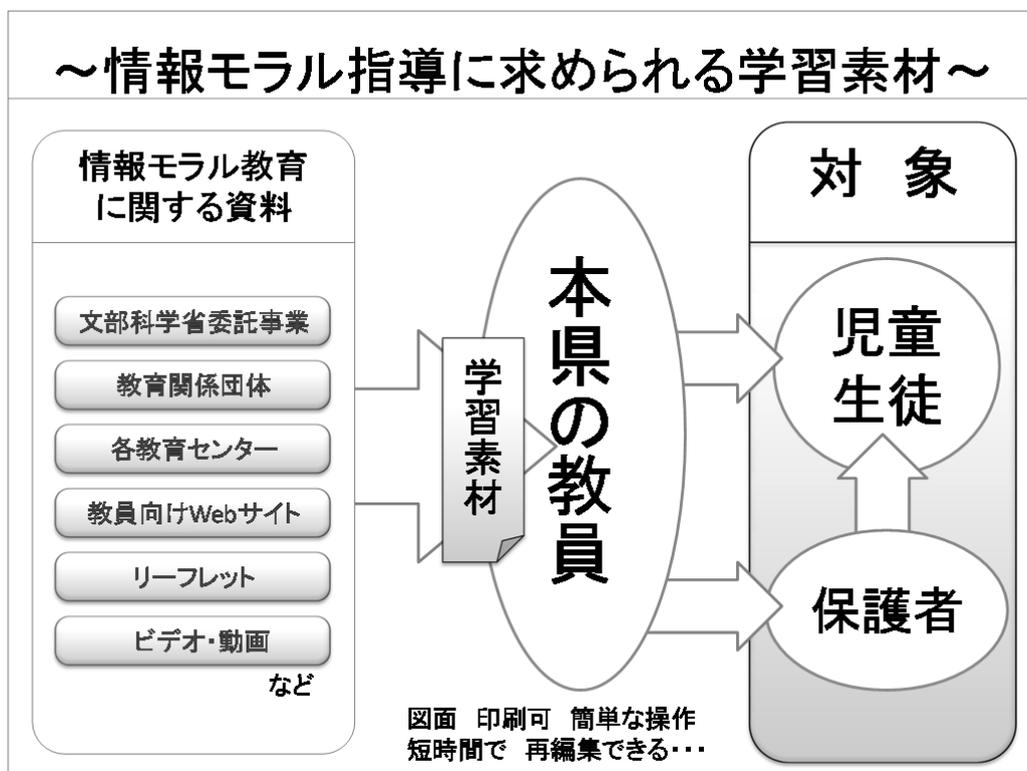


図1 本研究内容の概念図

## II 研究の目標

学習素材の作成にあたり、平成19年度文部科学省のICT活用指導力状況調査で、ICT活用を場面ごとの設問と「D 情報モラルなどを指導する能力」の設問で教員の状況が報告されている。この調査と同じ設問で、青森県総合学校教育センター平成20年度教職員研修講座のうち情報教育関係講座の受講者（以下受講者）と比較をした（表1）。回答の傾向として、設問B「授業中にICTを活用して指導する能力」は、高い順に、受講者70.7%、全国55.2%、県全体47.5%である。しかし、設問Dの情報モラルに関しては、全国平均65.1%より低い数値を示している。設問Dについては、ICTの活用に関係なく指導できるものと思われるが、低い結果が出ていることは本県教員においてICT活用に加え、情報モラル指導についても指導力を向上させることが課題として読み取れる。

設問Dに対する受講者の回答を詳しく見ると（図2）、本県の中でも情報モラル指導に比較的自信のある受講者においても、「児童がパスワードや自他の情報の大切さなど、情報セキュリティの基本的な知識を身につけるように指導する」の設問が他の設問と比べ、自信をもって指導することができないとする回答（2あまりできない 1ほとんどできない）が多い。このことは、責任と思いやり、ルールとマナー、情報の信ぴょう性や安全性、健康面の指導と比べ、さらに、指導する教員が情報セキュリティといった情報に関する専門的な知識をもった対応に自信がないことが読み取れる。

表1 ICT活用指導力調査の結果（全国と青森県、受講者の対比）

教員のICT活用指導力の状況 (H19全国・H19青森県・H20受講者の「4わりにできる」「3ややできる」の割合)	(単位:%)									
	全校種		小学校		中学校		県立学校			
	H19全国	H19青森県	H20受講者	H19青森県	H20受講者	H19青森県	H20受講者	H19青森県	H20受講者	
A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	71.4	66.9	79.2	66.6	75.9	64.7	74.3	68.8	85.7	
<b>B 授業中にICTを活用して指導する能力</b>	<b>55.2</b>	<b>47.5</b>	<b>70.7</b>	<b>45.4</b>	<b>66.2</b>	<b>45.5</b>	<b>60.6</b>	<b>52.6</b>	<b>80.7</b>	
C 児童・生徒のICT活用を指導する能力	57.8	51.9	66.0	54.3	64.0	48.0	62.4	52.9	70.4	
<b>D 情報モラルなどを指導する能力</b>	<b>65.1</b>	<b>57.7</b>	<b>64.2</b>	<b>60.6</b>	<b>60.8</b>	<b>53.2</b>	<b>55.3</b>	<b>59.9</b>	<b>73.5</b>	
E 校務にICTを活用する能力	65.6	62.1	71.7	55.9	61.8	61.9	67.9	71.1	84.0	

※平成19年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果における「2 教員のICT活用指導力の状況より」  
 ※青森県総合学校教育センター 平成20年度 情報教育関係講座 受講者への調査

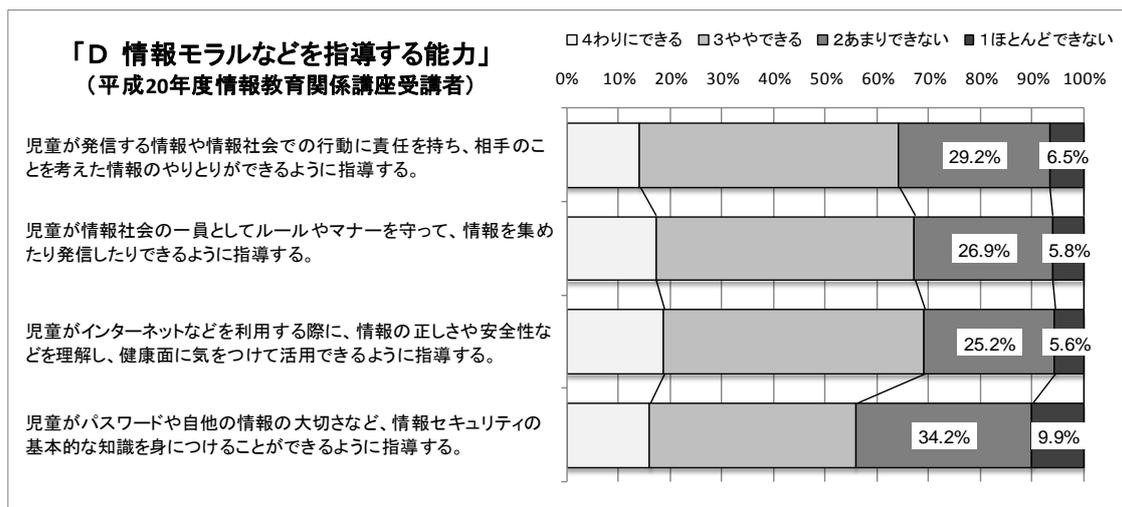


図2 受講者の情報モラル指導に関する状況

本県の児童生徒の状況、教員のICT活用指導力調査の結果から、情報モラルを指導するための基本的な解説や手掛かりとなる指導資料、指導の前の情報セキュリティに関する校内研修用の資料が本県教員に必要と考えた。このことから、学校現場の実情にあった情報モラル教育の充実を図るため、本県の実態に則した学習素材の提供を研究目標として取り組んだ。

情報モラル指導に求められる学習素材の作成にあたっては、児童・生徒の発達段階に合わせることで、実施対象別の学習素材とすること、資料の有効な活用を図ることを要点とした。

また、効果的で効率のよい学習素材を提供することによって、指導にあたる教員の情報モラルに対する意識や指導力の向上、指導する教材準備にかかる時間の軽減につなげること、学習指導や校内研修、保護者への説明資料として活用できるコンパクトな資料として学習素材を作成することとした。

### Ⅲ 研究の実際とその考察

#### 1 情報モラル指導に関するコンテンツ調査

インターネットに公開している情報モラル指導に関するコンテンツの調査を実施した。インターネット上に公開されている学習教材あるいは研修で活用できるコンテンツがどのような状況であるか調査することにより、情報モラル指導に関する資料の特徴をとらえることができると考えた。

##### (1) 文部科学省及び委託事業関係団体等で提供しているコンテンツ

公開されていたコンテンツの一部を以下に示す。

- ・『「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集』（平成20年11月12日）
- ・『「ちょっと待って、ケータイ」リーフレット』（平成20年 1月30日）
- ・『「ちょっと待って、ケータイ」【子ども向け】』エル・ネット・システム
- ・『情報モラル指導ポータルサイト』平成19年度文部科学省委託事業
- ・『情報モラル指導セミナー 「5分で分かる情報モラル」』平成19年度文部科学省委託事業
- ・『情報モラル研修教材2005』 独立行政法人教員研修センター
- ・『ネット社会の歩き方』財団法人コンピュータ教育開発センター
- ・『情報モラル指導のための実践事例』財団法人コンピュータ教育開発センター

##### (2) 各県教育センター及び関係する各種団体、携帯電話会社から提供されているコンテンツ

各県教育センターWeb サイトに掲載されている情報モラル教育に関する資料を検索し、調査を進めた。

さらに、インターネット等の関係団体のホームページや携帯電話会社が提供しているサービスについて調査をした。調査した主なコンテンツは以下の通りである。

- ・『情報教育ウェブ 情報モラル指導』岩手県立総合教育センター
- ・『情報教育 情報モラル授業実践パッケージ』岡山県総合教育センター
- ・『インターネットを利用するためのルールとマナー』財団法人インターネット協会
- ・『インターネットセーフティガイド』子どもたちのインターネット利用について考える会
- ・『ケータイ安全教室』NTTドコモ

調査したコンテンツは、対比するために参照先のアドレスを記録した一覧表にまとめた。この一覧表において、コンテンツの種別、対象、利用方法についてキーワードをつけて特徴を分類し、コンテンツの整理をした。提供されているコンテンツは、教材として用いる手段や学習環境などの条件の有無、指導内容の難易度の高低などにより4つに分類することができた。手軽に利用できるものには、印刷配布できるリーフレットやDVDに収録された教材映像があった。さらに、教材映像をパソコンで視聴できるサイトや指導するテーマに従ってパソコンを使って体験や学習ができるものもあった（図3）。



図3 提供されているコンテンツの分類

これらの豊富なコンテンツを活用する導入としての資料を整えることが必要と考え、作成にあたって印刷してそのまま利用できるもの、指導内容や指導対象を絞って提示できるもの、学校の実情に併せて資料が編集できるものを学習素材としてまとめることにした。また、学習素材は、学校のICT環境に左右されることなく手軽に授業等で利用できることに留意した。

## 2 作成した学習素材について

初めに、分類したコンテンツを活用するために、「ネット上のいじめ」問題に対応した情報モラル指導をする教員に向けて、コンテンツを利用してもらいたい順番と利用する場面で整理した「振り分けシート」を作成した(図4)。このシートでは、縦方向に利用してもらいたい順番で3段階に分けた。上段がすべての教員が指導をする前に確認してもらいたいコンテンツ、中下段が学校の実情に合わせた指導をするためのコンテンツである。横方向には、児童生徒に指導する場面や保護者への啓発場面、校内研修等で教員が使用する場面で振り分けした。配置した各コンテンツのイメージ図に、参照するサイトへの接続設定をつけることで、指導する内容をイメージしやすいようにした。

図4は「ネット上のいじめに対応するため指導内容」の振り分けシートです。縦軸は「緊急性」で「高」「中」「低」に分かれ、横軸は「先生方へ」の「児童・生徒への指導として」と「校内研修として」に分かれています。各セルには、文部科学省、青森県教育委員会、インターネット協会、政府広報、EMA、国民生活センター、教員研修センター、総務省、長崎県、情報ネットワーク教育活用研究協議会、警察庁などの様々な教育資源のイメージが掲載されています。

図4 振り分けシート

「振り分けシート」を使用することにより、効果的なコンテンツを活用した情報モラル教育の指導場面を提案することができ、教員への研修で提示するプレゼンテーションのスライド(以下スライド)作成の参考になった。教員が情報モラル指導をすすめていくための研修に必要なスライドの作成にあたり、実情把握やインターネットの特性の理解につながる情報提供、児童生徒の発達段階に合わせた指導内容や資料の利用ができることに留意した。

この作成したスライド(図5)は、青森県教育委員会の事業の中で実施した「情報モラル教育の指導法」で使用し、教員保護者への情報提供と検索演習の解説スライド、授業展開例を小・中・高等学校スライドに分けて実施した。作成したこれらの「振り分けシート」を含めたスライド集はCDに収録して、研修後に活用できるようにした。また、指導用スライドは青森県教育委員会ホームページ

図5は教員研修会用スライドの一部を示しています。左側には「演習の展開」があり、【情報提供】(30分)、【模擬授業】(30分)、【まとめ】(30分)の3段階が示されています。右側には「ケータイ・ネットの落とし穴」に関する「ダイレクトリンク機能」の解説があり、保護者や先生を飛び越えて直接情報のやり取りをする危険性が指摘されています。下部には「<模擬授業>」の紹介があり、小・中・高の各学年向けの教材が紹介されています。右側には「配布CD-ROM資料」のリストアップも含まれています。

図5 作成した教員研修会用スライドの一部

また、指導用スライドは青森県教育委員会ホームページ

ジに掲載され、情報モラル教育の指導を支援することとなった。さらに、青森県総合学校教育センター Web サイト内の「授業情報システム」で公開し、県内の教員がダウンロードして使用できるように提供している。

### 3 実証研究

#### (1) 情報モラル教育に関する研修会

作成した学習素材を使用した情報モラル指導について、平成21年4月下旬～6月にかけて青森県教育委員会主催の県内小・中・高・特別支援学校の生徒指導担当者が各校1名参加した研修会の中で実施した。研修会では、演習「情報モラル教育の指導法」として「携帯電話やインターネット」に関する学習素材を取り入れて、情報提供・模擬授業・まとめ・各学校での指導の合計90分構成で実施した。情報提供では、校内研修用のスライドで携帯電話に関する資料の提示やネットワークの特性について解説し、実際に裏サイトやプロフなどの検索演習をした。模擬授業では、振り分けシートにあったコンテンツを利用した学習指導例を紹介した。この研修の中で、作成した学習素材を提示し演習を展開していくことで、インターネットにあるコンテンツを活用し指導する方法の有効性を提案する機会となった。

受講者からは、スライドによる情報提供や検索の仕方、校種別の発達段階に合わせた授業展開が参考になったとの意見が多数あり、配布したCDに収録された学習素材を基に、児童生徒への指導や校内研修・保護者会での説明に利用したいとの感想を頂いた。また、模擬授業で紹介した学習指導例を実践した感想を小学校2校、中学校1校から頂いた。

#### (2) 学習素材を用いた研修会

前述した研修会の後、県内の学校から依頼があり、研修会で使用した学習素材を再編集して各校に出向き研修会を実施した(図6)。

- ・ 情報提供と保護者への啓発資料としてスライドを使用した教員研修会  
(小中学校合同研修会, 地区生徒指導委員会での講演)
- ・ 情報提供と保護者としての責務を解説するスライドとして使用したPTA講演会  
(小学校体育館での講演)

**「ケータイ・ネットの落とし穴」**

利用状況について  
○利用頻度等は学年が上がるにつれ増加。個人差も大きい。  
【1日平均のメール送受信件数】  
・「ほとんどメールは使わない」「10件未満」  
→小6は74.8%、高2は41.3%  
・「50件以上100件未満」「100件以上」  
→小6は2.4%、高2は13.9%(1クラスに5人)  
【自分のプロフの公開】  
・したことがある  
→高校2年生: 44.3%  
・自分の子どもがしたことがあると思う  
→高2保護者: 16.5%

注目! : スレと差(推測・認識⇔実態)

全国の統計より「スレと差」に注目【推測・認識⇔実態】

**保護者への啓発**

- ☑使うときのマナー
  - 相手を思いやる心をもって、自己責任(監護責任)
- ☑使い方のルール
  - 使う時間と場所を決める。
  - 例 21:00まで、充電する場所は居間
- ☑フィルタリング
  - 子どもが使う携帯には必ず設定する(解除しない)
- ☑保護者の皆さまにお願い
  - 常に子どもたちの利用実態の把握に努める
  - 相談先や対処の仕方を調べておく(配布した資料を活用)

**保護者用【ネット犯罪対策・ネットいじめ被害対策の資料】**

子どもと一緒にインターネットを勉強しましょう

1 青森県教育委員会のホームページより ( <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/main.html> )

2 「学校教育」より「ネット上のいじめへの対応」

3 「参考となるWebサイト一覧」のページ

4 保護者向けサイト一覧

親子で学ぶ 知っておきたいこと

インターネットの解説  
トラブルの解説

(イメージをクリックすれば各サイトが表示されます)

※インターネットに接続してご利用ください

図6 提示したスライドと資料例

- ・模擬授業で紹介したスライドとワークシート、ビデオ視聴を使用した児童保護者合同集会  
(小学校参観日の行事として体育館での講演)

特に、小学校の授業参観日における児童と保護者の合同集会での講演では、DVDを視聴してから親子で考える場面を取り入れた授業を実施した(図7)。後日、小学校より送付された講演の感想とワークシート記入例から、メール等をする場合に気をつけることなどにふれていたことから、児童がメール等の文字で伝えることの難しさに対し反応を示し、自制心が働いていることが確認できた。

保護者の感想の中に、「ルールを共に考えていきたい」と「家庭内のルールの必要性を実感し、保護者の責任を感じた」と書かれていたことから、情報モラル教育について保護者がかかわりをもつ必要性があることを伝えることができたと評価したい。

これらの研修会での講演に使用したスライドは、対象別に整理・再編集した。また、保護者会での講演会では、実際に携帯電話の画面を拡大投影し、学校裏サイトを検索する場面を提示しながら講演した。拡大投影は、身近にある機材や消耗品の範囲内で購入できるものを使用しており、大変好評であった。



図7 児童保護者合同集会のスライド

### (3) アンケート分析

上記の「携帯電話やインターネットに関する」研修会や講演会において、参加した教員・保護者より、実施後にアンケート調査(表2)を実施した。アンケート項目には、教員が求めている教材、教員と保護者における指導の役割をどのようにとらえているのかの質問を設定し、情報モラル指導に求められている題材や形式への要望を基に学習素材のねらいや方向性、提供の仕方を検討できるようにした。

表2 アンケートの設問(※いずれも複数回答可)

設問A	研修会で紹介した資料のうち、使用してみたい教材をお教えてください。
	① DVD「ちょっと待って、ケータイ」 「ケータイ安全教室」 などの映像教材
	② プレゼンテーションのスライド (今回使用したスライド)
	③ ビデオ場面集・指導案・ワークシート (指導資料CDROMより)
	④ 振り分けシートにあるのサイト (今回紹介したPDFファイルより)
	⑤ その他 ( )
設問B	ケータイの利用方法などで心配していることはありますか。
	<input type="checkbox"/> トラブルに巻き込まれる恐れがある <input type="checkbox"/> 勉強の妨げになる
	<input type="checkbox"/> 子どもの交友関係がわからなくなる <input type="checkbox"/> 利用料金が負担になる <input type="checkbox"/> その他
設問C	情報モラルについて、学校で(保護者に)指導してもらいたいことはありますか。
	<input type="checkbox"/> ケータイの使い方 <input type="checkbox"/> フィルタリング <input type="checkbox"/> インターネット上のトラブル
	<input type="checkbox"/> ネチケット(ルールとマナー) <input type="checkbox"/> その他 ( )

設問Aの回答からは、使用してみたい教材を選択した数の順が「映像教材69.7%、指導資料CD40.9%、振り分けシートのサイト36.4%、スライド27.3%」となり、そのまま使って指導ができる教材を希望していることが確認できた。

設問BとCについては、小中合同研修会において実施した研修前と研修後の比較(図8)より、学習素材を活用した研修会の効果を確認した。まず、心配なことの変容は「勉強の妨げ」が増え、「料金」が減っていることが確認できる。この点は、研修により理解が深まったことであり、学習素材が有効に利用できたことと推測できる。しかし、「交友関係」の変化がないことは、ネットワークを利用した交友の影の部分に対する説明が足りなかったように思う。次に、保護者に指導してもらいたいことの変容では、全体

的に保護者に期待することが多く、「使い方とフィルタリング」が特に大きく増えていることから、参加した教員が研修の内容を理解し、さらに保護者への啓発が必要であることと、危機感をもったことが推測できる。

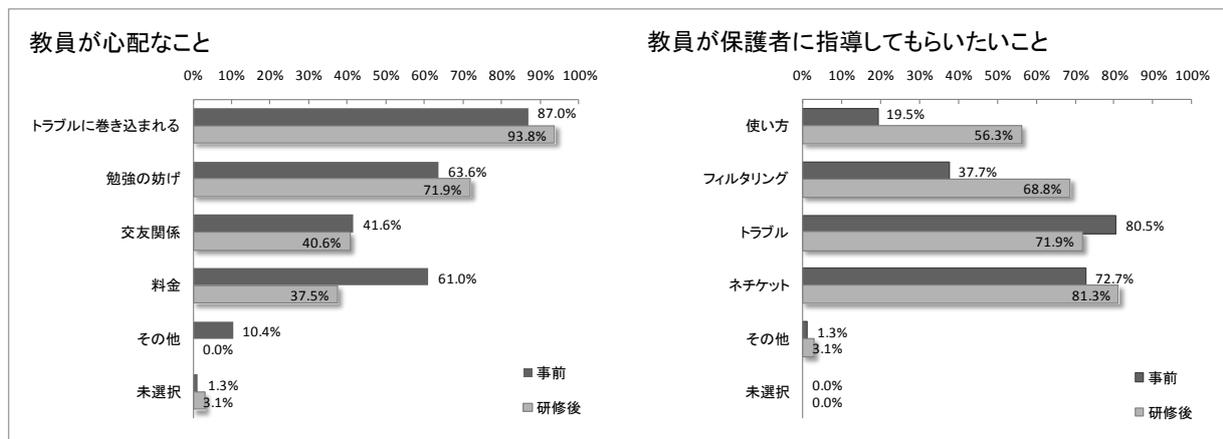


図8 教員の研修前後での変容  
(研修前回答77名, 研修後回答32名)

教員と保護者の研修後のアンケート(図9)について比較してみると、「心配なこと」では、「トラブルに巻き込まれる」が両者ともにあり、「料金」については保護者が教員より多い。そして、「指導してもらいたいこと」については、「トラブル」や「ネチケット」についてが多い。「ケータイの使い方」は保護者自身が指導にあたるべきと多くの保護者が考えていることが推測できる。また、教員の半数以上がすべての内容の指導を保護者に望んでいることが分かる。

2つのアンケートでは、教員と保護者とも「トラブル」に関する項目が高い値であることから、学習素材を利用した研修会においてケータイ・インターネットの影の部分への対応が必要であると理解できる。さらに、「トラブル」と「ネチケット」への指導が両者ともに半数を超えていることから、指導が相手任せの傾向であり、指導内容の役割分担や連携した指導をする必要性が読み取れる。

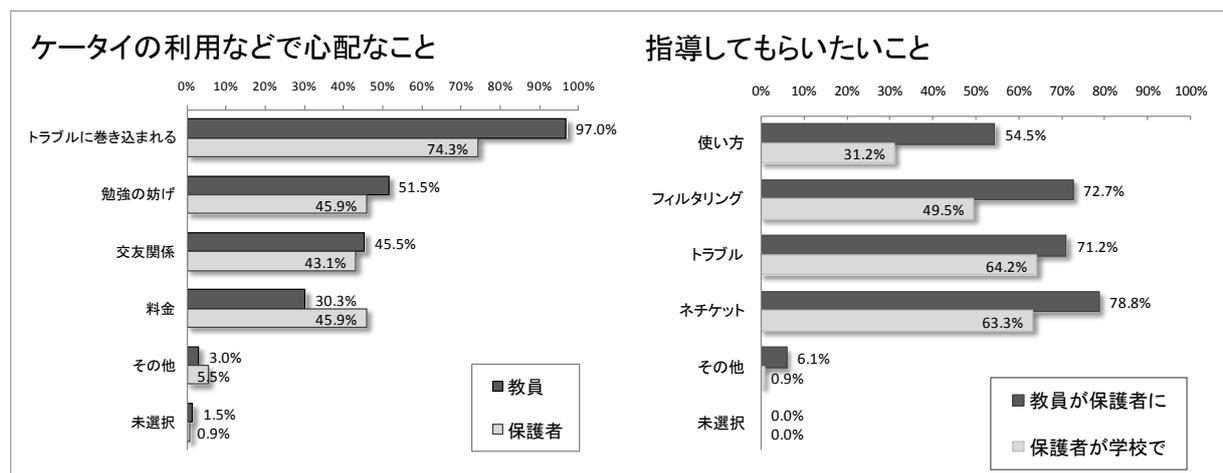


図9 教員と保護者のアンケート結果  
(教員66名, 保護者回答 109名)

これまでのアンケート分析から、学習素材を使った研修会での情報モラル指導における教員・保護者への啓発に対して有効であったことが確認できた。加えて、教員と保護者がそれぞれの役割に自覚をもち、日常的に情報モラル教育を連携し指導していかなければならないことを明確にしたことを示している。

このことから、研修会の内容である教員・保護者への情報提供と検索演習の解説スライド、授業展開例を小・中・高等学校の発達段階に合わせたスライドの作成は、情報モラル教育に求められる学習素材として有効であったととらえることができる。

## IV 研究のまとめ

作成した学習素材は、利用の場面や対象ごとに分割・整理したものを提供できるようにした。さらに、これらの学習素材を取りまとめた学習モデルプランシートで確認することで、情報モラル指導をする教員への支援資料となるように構成した。以下に学習素材の解説をする。

### 1 研修会で使用できるスライド集

#### (1) 校内研修用

教員が情報モラル教育に関する校内研修に使用できるスライドを作成した。作成したスライドの主な内容は、ケータイが情報端末であることに理解を深め、危険性の高いことを認識するための解説スライドとなっている。また、学校の実情に合わせて研修会の要点を絞り、単独で資料配付できるような構成に作成している（図10）。

#### (2) 保護者説明用

教員が保護者に対し、情報モラル教育に関して啓発する際に使用できるスライドを作成した。作成したスライドの主な内容は、携帯電話を持たせる際の保護者としての責務やトラブル事例の確認と、その対処方法について説明できる解説スライドとなっている。また、校内研修用と同様に資料として印刷配付できるように構成し、作成している（図10）。



図10 校内研修・保護者説明用スライド例

### 2 授業実践のためのスライドとワークシート

教員が児童生徒に対して情報モラル教育の指導に使用できる学習スライドを作成した。小・中・高等学校において、実態に合わせて情報モラルモデルカリキュラムの目標レベルに適合した内容を選択できるようにした。スライドには、解説・シナリオをつけ、授業でそのまま実践できるように工夫した。また、パソコンやインターネット、プロジェクターなどの設備がない環境でも使用できるように、スライドは提示した様式で印刷できるよう画像に変換し、紙芝居方式で授業ができるように作成した。さらに、授業を進行する際にスライドに合わせて使用するワークシートを作成し、児童生徒の意識の変容を読み取り、継続的な指導へと結びつけることができるようにした（図11）。

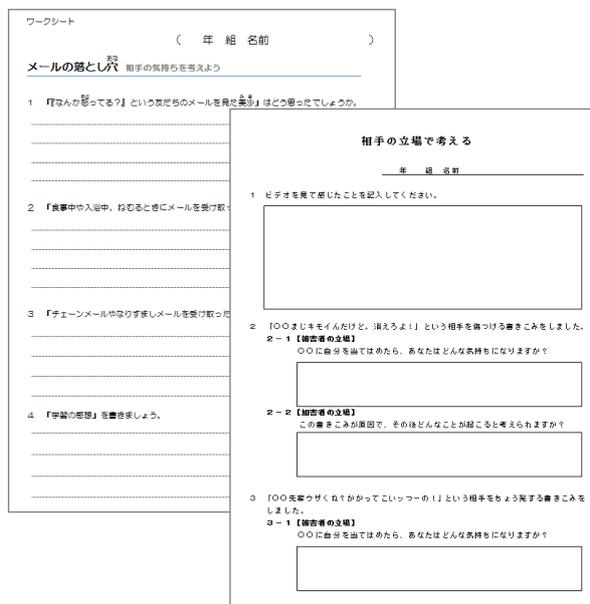


図11 ワークシート様式

### 3 インターネットを活用した振り分けシート

#### (1) 教員用振り分けシート

教員用振り分けシートは、情報モラル指導をするため教員に向けて、コンテンツを利用してもらいたい順番と利用する場面で整理したシートとして作成した。このシートは、インターネットが接続されている環境で使用すると、参照サイトにリンクが設定されており、コンテンツ検索にかかる時間を軽減でき、より手軽に利用できるように作成した。

(2) 保護者用振り分けシート

保護者用振り分けシートは、保護者への啓発や家庭での対応に使用できるシートとして作成した。情報モラル教育を指導する役割が保護者にもあることを認識してもらうため、家庭で子どもと共に学習できるリーフレットや学習用コンテンツ、またトラブル等で困った時に対応できるような各機関を配置し、家庭でも日常的に情報モラル指導にかかわることができるよう構成した。

(3) 携帯電話用振り分けシート

教員・保護者へ振り分けシートについて紹介をした際に、インターネットに接続されていない環境なので、使用できないという意見があったことから、携帯電話のバーコード読み込み機能を利用し、QRコードを読み取ることで関係サイトを閲覧可能な振り分けシートを作成した（図12）。



図12 携帯電話用振り分けシート

4 学習モデルプランシート

モデルプランシートは、学習素材を実際に使用した研修会でのアンケート及び研修会後に授業実践した教員の感想を反映させて作成し、「情報モラル学習素材一覧」と「情報モラル研修素材一覧」の2部構成とした。（図13、図14）

情報モラル学習素材一覧

整理番号	学習素材	○テーマ・ねらい ◇素材の特徴	対象	時期	情報モラル指導モデルカリキュラム表より (文部科学省委託事業「情報モラル等指導サポート事業」)	モデルカリキュラム中目標	分類
1		○相手の立場に立ち思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えることができる ◇文科省「ちょっと待って、ケータイ」DVDを視聴 ◇ワークシートにまとめさせて発表させる	小学校 高学年	随時	a1-a3: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ	情報社会の倫理	
2		○情報発信には責任ある態度が必要なことを理解する ◇NTTdocomo「ケータイ安全教室」DVDを視聴 ◇ワークシートにまとめさせて発表させる	中学生	入学時	a4-a5: 情報社会への参画において責任ある態度で臨み、義務を果たす	情報社会の倫理	
3		○掲示板等の仕組みを知る ○安易な書きこみの未然防止 ○自己を見つめ直す ◇NTTdocomo「ケータイ安全教室」映像教材を視聴 ◇ワークシートにまとめさせて発表させる	高校生	入学時	a4-a5: 情報社会への参画において責任ある態度で臨み、義務を果たす	情報社会の倫理	
		○携帯電話の光と影の部分を考えさせる ◇小グループで意見をまとめさ	小学校		d1-d3: 情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる	安全への知恵	

図13 学習モデルプランシート

実際に学習素材を使用し授業を実践した例は、2通りあった。1つは、提案した学習素材（スライド・ワークシート・学習指導演）をそのまま加工することなく使用し、授業展開した事例、もう1つは、児童生徒の実情に合わせてスライドなどの一部を使用し、授業展開した事例である。このことから、作成した学習素材が学校の実態に合わせて効果的に活用できるものであったと考えている。また、実践する時期について知りたいという質問も見られたことから、学習素材のテーマやねらいと青森県の実情に合った対象学年、時期、「情報モラルモデルカリキュラム」の中目標を示しカリキュラム上のどの目標レベルにあるのか確認でき、その内容を目安に教員自身が選択し使用できるような構成にした。

## 情報モラル研修素材一覧

整理番号	研修素材	○テーマ・ねらい ◇素材の特徴	対象	時期	研修実施例	情報モラル指導モデルカリキュラムでの分類
K1		○携帯電話が携帯情報端末であることを理解させる ○携帯情報端末の危険性を理解させる ◇印刷配布できるスライド	教員 保護者	入学時	・プレゼンテーション資料として拡大表示して解説 ・子どもの携帯電話に関する研修での導入に利用	安全への知恵
K2		○携帯電話に関する調査から現状を理解させる ○全国と本県の違いを確認させる ○大人と子どもでの認識の違いを気付かせる ◇統計資料へリンク	教員 保護者	定期的	・プレゼンテーション資料として拡大表示して解説 ・情報提供として利用	安全への知恵
K3		○資料の入手法と活用事例を確認させる ◇インターネットに接続して利用	保護者	随時	・インターネット利用の実演をして説明 ・演習でインターネットの資料を閲覧させる	情報セキュリティ

図14 研修モデルプランシート

今後も学校現場の要望・意見を参考にして、指導する対象や場面を絞った手軽に使える素材を作成していきたい。そして、常時更新し提供できるようにしたい。

## V 本研究における課題

作成した学習素材の活用については、使用する時期やねらいについて、目安となるモデルプランを作成し汎用性を高めることができた。また、研修会の参加者アンケートから、保護者に提示する資料を必要としていること、教員・保護者のニーズに合わせた素材の充実が求められており、今後のさらなる研究の必要性を感じている。

最後に、情報モラル教育は情報技術の知識も重要であるが、根底には道徳的な指導が重要となることを認識し、実践へ結びつけられるよう、作成した学習素材の周知を図り、学習素材を活用した指導事例の収集・充実と提供に努めていきたい。

<注>

産業教育課 指導主事 木村紀子

<参考文献>

日本教育工学会 2007 『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』  
文部科学省 2008 『「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集』（平成20年11月12日）

<参考URL>

岩手県立総合教育センター 2009 「教材システム『情報サイト』」  
[http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/moral/joho\\_site/index.html](http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/moral/joho_site/index.html) (2009.11.16)  
岡山県総合教育センター 2009 「すべての教員が情報モラルを指導するための授業実践パッケージ」  
[http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/jyoho\\_kyouiku/moral/index.html](http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/gakkoushien/jyoho_kyouiku/moral/index.html) (2009.11.16)  
文部科学省委託事業 2007 「情報モラル指導セミナー「5分で分かる情報モラル」」  
[http://sweb.nctd.go.jp/5min\\_moral/index.html](http://sweb.nctd.go.jp/5min_moral/index.html) (2009.4.9)  
文部科学省委託事業 2007 「情報モラル指導ポータルサイト」  
<http://kayoo.info/moral-guidebook-2007/index.html> (2009.4.9)  
文部科学省 2008 「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果【速報値】について」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/20/08/08080601/001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/08/08080601/001.pdf) (2009.4.6)  
文部科学省 2009 「「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」の結果について 添付資料一覧」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/05/attach/1266542.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/05/attach/1266542.htm) (2009.5.26)